2年半にわたり中国各地で撮影し、家族に送られた日本兵の日常

村瀬守保（1909年～1988年）は1937年(昭和12年)7月に召集され、中国大陸を2年半にわたって転戦。カメラ2台を持ち、中隊全員の写真を撮ることで非公式の写真班として認められ、約3千枚の写真を撮影しました。

天津、北京、上海、南京、徐州、漢口、山西省、ハルビンと、中国各地を第一線部隊の後を追って転戦した村瀬さんの写真は、日本兵の人間的な日常を克明に記録しており、戦争の実相をリアルに伝える他に例を見ない貴重な写真となっています。

一方では、南京虐殺、「慰安所」など、けっして否定することのできない侵略の事実が映し出されています。

主な年表と村瀬守保さん略歴

1909年(明治42年)12月　文京区真砂町に生まれる
1927年(昭和2年)7月　私立豊山中学校諭旨退学
以後 人夫、新聞配達員、商店員、テキヤ、船乗り、トラック運転手、タクシー運転手
1931年(昭和6年)9月 柳条湖事件(満州事変)
1932年(昭和7年)1月 第1次上海事変
1937年(昭和12年)7月 盧溝橋事件
召集 輜重兵 補充兵 二等兵
同年8月 第2次上海事変
同年12月 南京事件
1939年(昭和14年)8月　ノモンハン事件
1940年(昭和15年)1月　召集解除
同年3月　会社員・㈱三田鉄工所 工場長、社長
1945年(昭和20年)8月 敗戦
㈱三田発動機、㈱共パン、アルプスミシン㈱、アルプス産業㈱社長
その後
埼玉設備工業㈱ 社長
全国商工団体連合会 常任理事
埼玉県商工団体連合会 副会長など歴任
1988年(昭和63年)7月　死去　78歳

重慶爆撃と東京大空襲

日中戦争中の1938年12月から1941年9月にかけ、日本陸海軍航空部隊が中華民国の首都重慶に対して反復実施した大規模な戦略爆撃。一般市民にも多くの被害を出したため、無差別爆撃と批判された重慶爆撃は、アメリカなどの連合国軍による日本本土空襲や広島・長崎への原子爆弾投下の正当性の根拠とされた。

東京大空襲

1945年3月4日焼失　下谷区上野池之端弁天堂。
（撮影3月20日）

爆撃された重慶市街